

友をたずねて三千年日(第三回)

横浜市 中村眞和(直江津出身)

その後、直江津へ行く機会もなく、そのままになっていたが、二〇〇三年九月父の故郷である親不知へ行った帰りに立ち寄ることにした。

前回の九九年九月の時は、時間が余りなかったため、直江津駅近くの時計台のある南小学校に立ち寄り依頼したのであるが、ここは私が中学一年生の時に通学した中学校であった所で、多分その後、団塊の世代に対応するため小学校が二つになった名残と思われる。しかし、今はそれぞれ一学年一クラスずつしかないとのことである。今回は、当時、通学し卒業した直江津港の近くの小学校を訪れることにした。

前回と同じように、記憶を頼りに作成した小学校時代のクラス担任の先生の名前(一、二二年、岩島トヨ先生、三、四四年、

今までは、直接同期生に会うことを考えていたが、少し範囲を広げて同窓生や同郷の人と会うところから考えることにした。以前「創立二〇周年記念誌」と一緒に頂いていた「東京あらうみ会」の会報(平成十年十月発行)のコピーに記載されている東京日野市のあらうみ会に電話することにした。その電話番号は、あらうみ会会長今井勇氏の自宅のものであった。ところが驚いたことに、今井会長は、最近亡くなられたばかりであり、お願いの話ができなかったが、後に奥様から電話があつて、後を継ぐ会長がいないので解散することになったとのことでした。その際に新潟県人会を紹介されたのですが、範囲が広すぎて直江津小学校の同期生にたどり着くのが困難であると判断して県人会には連絡しなかった。

佐藤幸子先生、五、六六年、清水茂夫先生などを記載した資料を持参して、現在の直江津小学校の校長先生を訪問した(九月一七日)。義務教育のため、同じ中学へ進学するので、中学校のクラス会が普通であり、小学校のクラス会や同期会はやっていないようであるとのこと。私は、直江津中学校を卒業していませんので、そのクラス会には参加しにくいと思った。その時頂いた「創立二〇周年記念誌」(平成三年十一月発行)に記載されていた同窓会長を紹介していただき帰りに訪ねてみた。しかし、良い情報は得られなかった。

直江津小学校の同期生(昭和二十七年三月卒)をたずねる旅は、なかなか進展せず諦めかけていたが、気を取り直して二〇〇四年夏活動を再開することにした。

九九九から始まった三〇〇〇日の旅は、まだ続いている。(つづく)
二〇〇六・一五・二四(2450日)

(注)「友をたずねて三〇〇〇日(2)」は、「お元気ですか」(2006年18)に掲載しています。

